

かんちけん倶楽部

— NEWS —

■ 外国人教員「マジド マフムド アブズレイグ特命教授」が着任しました。

ヨルダン科学技術大学において教授として乾燥地での効率的な水利用やそのモデリングについての教育や、国際交流センター設立者として同大学の国際化に大きく貢献した Majed Mahmoud Abu-Zrei 氏を国際乾燥地研究教育機構特命教授として採用しました。10月2日に辞令交付式、その後、学長等との懇談を行い、同氏から「鳥取大学における乾燥地研究教育の強化に尽力するとともに、ヨルダン科学技術大学国際交流センターでの経験を活かした鳥取大学の国際化へ貢献したい」と力強い抱負が述べられました。



センター長らと記念撮影をする同氏（前左）

■ 外国人教員「クリスティーナ トデリッチ特命准教授」が着任しました。

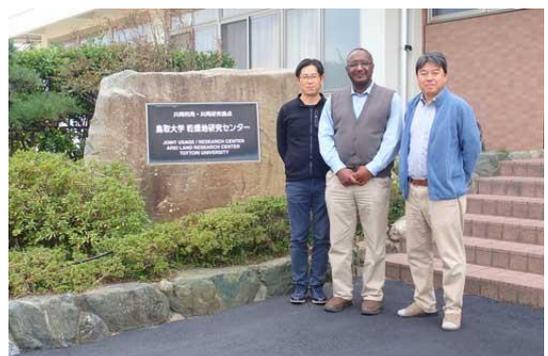
ICBA(International Center for Biosaline Agriculture, 国際塩生農業センター)においてリージョナルコーディネーター、リードサイエンティストとして、世界各国研究機関などとの広いネットワークを活かし、資源に乏しい乾燥地の人々の生活向上を目的とした生態学、水資源管理、栄養・食料保障などについての研究を行ってきた Kristina Toderich 氏を国際乾燥地研究教育機構特命准教授として採用しました。1月18日に辞令交付式、その後、恒川推進室長や山中乾燥地研究センター長との懇談を行い、同氏から「鳥取大学における乾燥地研究教育のグローバル化に尽力するとともに、国際標準にかなう教育・人材育成システムの構築へ貢献したい」と力強い抱負が述べられました。



同氏（左）と恒川教授

■ 外国人客員教授「Imad-eldin Ahmed Ali Babiker 博士」が着任しました。

スーダン農業研究機構の Imad-eldin Ahmed Ali Babiker 博士が10月1日付けで、乾燥地研究センターの外国人客員教授として着任されました。Ali Babiker 博士は1997年に鳥取大学で学位（生物生産科学）を取得されました。その後、気候変動適応策など幅広いテーマで研究を行っており、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)などの国際会議でも活躍されています。センター滞在中は、黒崎准教授とともに、温暖化プロジェクトの研究を推進していただくことになっています。



同氏（中央）とセンター長、黒崎准教授

■ ICBA 所長の Ismahane Elouafi 博士が乾燥地研究センターを訪問されました。

Ismahane Elouafi 博士は、ICBA(International Center for Biosaline Agriculture)ウズベキスタン事務所の Kristina Toderich 博士とともに、国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター(JIRCAS)の招へいで来日されました。忙しい日程の中で、今回、JIRCAS の池浦博士と共に、乾燥地研究センターを訪問されました。良い機会ということで、Elouafi 博士には「Sustainable, Climate-smart Agriculture in Marginal Environments」の演題でセミナーを行っていただき、センターの研究者や学生との交流を行いました。その後、新しくなった実験室やアリドドームの視察をされました。



— 活動報告・研究成果 —

■ センター本館改修工事及び研究室等移転の無事完了を祝う会を実施しました。

本年2月から行われていた乾燥地研究センター本館改修工事がこの9月末に完了し、リニューアルしました。この工事は本学の機能強化の一環として乾燥地科学や開発途上国等に関する研究・教育を全学的に推進するために行われたもので、外国人教員等研究室の整備、異なる研究分野の学生共有スペース、教育の活性化を促すアクティブラーニングスペースのほか、実験機器の集中配置による国内外の共同研究者との共同利用を可能としたオープンラボなどが設置され、改修延床面積は1,340㎡に及んでいます。センターではこの工事期間中、多数の教員、研究員及び留学生が仮居室に待避していましたが、工事完了に伴い新居室へ移転、実験機器等をラボに移設し、これらが一段落した10月23日(月)、工事と移転の無事完了を祝う会を実施しました。



■ 国立大学附置研究所・センター長会議第2部会(会議・シンポジウム)が開催されました。

11月10日(金)、第61回国立大学附置研究所・センター長会議・第2部会会議が、鳥取市内のホテルで開催されました。この会議は全国の国立大学附置研究所・センターが毎年持ち回りにより行っているもので、本年度は全国から34の機関の長および事務関係者総勢約80名が出席しました。会議では、山中センター長、杵見研究担当理事、江面第2部会長の挨拶の後、議事に入り、現在文科省審議会にて検討中の国際共同利用・共同研究拠点制度に対する本会議における意見・要望等が議論されたほか、各研究所やセンターの活動状況が報告されました。



またこの会議には、文部科学省学術機関課から西井課長はじめ3名が出席され、共同利用・共同研究体制の強化・充実策など所管事項が説明されました。会議は終始活発な質疑応答、意見交換が行われ、盛会のうちに無事終了しました。翌11日(土)には、この会議及び本センター共催により「黄砂と健康～越境汚染のいま～」と題されたシンポジウムがとりぎん文化会館で開催されました。

■ 小学生向け課外授業を行いました。

11月7日、鳥大附属小学校の生徒62名が「キャリアに拓く」という課外授業でセンターにやって来ました。山中センター長が乾燥地についての講義を行った後、安田准教授、河合研究員が乾燥地で重要な水についての実験を行いました。

■ 共同研究発表会が開催されました。

乾燥地研究センターは、文部科学省の共同利用・共同研究拠点に認定されており、全国の多くの共同研究者が、センターの施設・設備、ユニークな植物資源、センターが培ってきた国内外のネットワークを利用して、乾燥地科学の研究を行っています。今年は鳥取大学鳥取キャンパス共通教育棟で12月2～3日に海外5機関含む全国44研究機関・大学・民間から139名の研究者が参加しました。初日は、鳥取大学国際乾燥地研究教育機構のPaolo Billi 特命教授による特別講演"DRYLAND RIVERS:resources, hazards, geomorphic processes"がありました。その後、本センターが重点的に進める特定研究及び重点研究3件の成果発表、一般研究などのポスター発表52件の2分間ショートトークがあり、その後は、鳥取大学生協食堂で情報交換会が行われ、軽食を取りながら研究者ネットワークの強化が図られました。翌日のポスターセッションでは、引き続き活発に研究交流が行われ、特に優秀な研究発表者に対して乾燥地科学共同研究発表賞が授与されました。



センター長による授業風景



センター長による開会の挨拶と受賞者

日常のひとこま

■ 平成29年浜坂地区消防訓練を実施しました。

10月25日、消防訓練を行いました。建物内から火災が発生したという想定で、発見者からの通報、事務室から消防署への通報、避難開始の館内放送(英語でも行いました)、避難誘導、初期消火等々、それぞれ役割分担を決めて訓練を行いました。その後、消火器を使っての消火訓練を実際に火を使って行いました。訓練終了後は、消防署の方に、通報や連絡等が大きな声でわかりやすくよかった等のお褒めの言葉があった一方で、出火元の部屋の前を通過して避難した人がいたので注意すること等の指摘がありました。また、センターは外国人の研究者、留学生のほか外来者も多いので、災害が起こった際は、外国の方への避難誘導がきちんとできるよう日頃から経路確認しておいてくださいと助言をいただきました。



消防署の方から講評を頂きました。

■ 園児たちがサツマイモの収穫にやってきました。

10月に、センターの近くにある浜坂保育園の園児たちが、春に植えたサツマイモの収穫にやってきました。以前は砂丘こどもの国内の小さな畑で収穫をしていましたが、数年前からセンターの畑を使って収穫体験を行っています。

■ 水神祭を行いました。

11月22日に、水神祭を行いました。センターの実験圃場で使う水は、敷地内に湧き出る湧水を使用しています。実験のために大変重要なそのセンターの湧水に、年に一度、この時期にみんなで感謝をします。



園児たちによる収穫の様子



水神祭の様子

— おしらせ —

■ 朝日新聞鳥取版で、コラム「砂丘から世界へ」を連載中です。

2017年の4月から、朝日新聞鳥取版にて、センターの教員や研究員による研究の内容をわかりやすい内容で掲載しております。インターネットを通じて閲覧できますので、是非ご覧ください。

(URL: <http://www.asahi.com/area/tottori/articles/list3200089.html>)

■ センターの平成28年度年報を掲載中です。

平成28年度の年報をインターネットを通じて閲覧できます。各教員の研究内容や共同研究の結果などが掲載されています。是非ご覧ください。

(URL: <http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/results/nenpo/2016.html>)

☆ 乾燥地学術標本展示室の休日公開

乾燥地研究センターでは、土・日・祝日の12～16時、「ミニ砂漠博物館」を公開しています。入場無料、予約不要ですので、この機会に是非ご覧下さい。(平成30年3月12日(月)～4月15日(日)は改装のため休館となります)

【とっとり乾地研倶楽部の設立趣旨】

砂漠化防止や乾燥地農業について世界的に貢献している鳥取大学乾燥地研究センターは、世界の乾燥地研究ネットワークの中核として学術研究、人材育成に大きな役割を果たしており、地域にとっても世界に誇るべき知的財産です。

そこで、鳥取大学乾燥地研究センターの活動を地域で支え、その研究活動と研究成果を広く情報発信することを通じてこの地域の発展を図るために「とっとり乾地研倶楽部」を設立しました。

発行：とっとり乾地研倶楽部事務局
鳥取商工振興協会 〒680-0031 鳥取市本町3丁目201番地
TEL (0857) 26-6886 FAX (0857) 22-0155

(編集) 学術広報委員会委員 木村玲二・藤巻晴行・金田泰雄